毎月１５日発行　VOL.792　2025年4月15日発行

全肢連情報

ZENSHIREN BULLETIN

皆様からニュースのご提供を
心からお待ちしております

全肢連公式ホームページでも全肢連情報をご覧になれます
https://www.zenshiren.or.jp

全肢連　検索

□編集・発行
一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚３－４３－１１
福祉財団ビル５階

ＴＥＬ：０３－３９７１－３６６６
ＦＡＸ：０３－３９７１－６０７９
メール zenshiren@zenshiren.or.jp

障害者自立支援法制定から 20 年「措置から契約へ三障害一元化」

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会　会長　清水　誠一

戦後も障害福祉制度は措置の時代が長く続き、障害児者の福祉サービスの決定は本人の意向に拘らず行政が必要性を判断して決める仕組みでした。 障害福祉制度の大転換は、平成 15 年４月の支援費制度で「措置から契約」へ障害のある利用者が自ら必要なサービスを決め支給を受けることが可能となったことに始まります。しかし精神障害者は対象外でしたが、３年後、新しい制度が創設されることになります。

「平成 18 年障害者自立支援法」施行です。

「身体・知的・精神」の３障害を一元化した制度で、「施設から地域」への目標を盛り込み難病も対象に加え「障害者総合支援法」と変遷を遂げ重度訪問介護の対象者拡大やケアホームのグループホームへの一元化など、肢体不自由児者が「希望する地域で自立した暮らし」を自分の意志で決めることが可能となりました。

20 年前、重度の障害者（肢体不自由）２０代男性の施設から地域へ移行した事例です !!

「彼は、車いす使用で重度の障害者であったが、それまで海を見たこともない生活環境でした。彼は、家族の反対の中で入所施設から借家に移住して、ボランテイアの介護支援を受けながら、自由に旅行や食事のメニューも自分で決める生活をスタートした。介護サービス事業所も徐々に充足する。」

どんなに重い障害があってもあきらめず各種制度を学び、自宅や借家、グループホームで自立した生活が可能となりました。就労希望では機能訓練・自立訓練をはじめ就労継続支援Ａ型・Ｂ型が選択できて、補装具も自ら必要な装具を利用できる時代になりました。

障害者自立支援法制定から２０年、全肢連は障害児者及びご家族皆さまともども、誰もが「住み慣れた地域で共生社会の実現」を目指してまいります。

自立支援法の理念と生活自立の路を切り拓くことができたことを、後世に伝え残すことを目的に、障害福祉団体と、記念事業を行うことを企画しております。

令和６年度第２回理事会（令和７年３月24日開催）

令和７年３月２４日（月）、全肢連事務局のある福祉財団ビル７階の会議室において、令和６年度第２回理事会が、開催され５つの議案を審議しました。

現在、議事録に署名がなされておりませんので、今回は概要を紹介し、詳細は後日お知らせいたします。

理事会の様子

〇第１号議案

令和６年度に開催されました「第５７回全国大会（奈良大会）」の決算報告がなされました。５７２名の参加者がありました。

〇第２号議案

令和６年度の事業進捗状況については、概ね予定していた事業が行われた旨の報告がなされました。詳しくは、令和７年度総会にて、「令和６年度事業報告」として報告いたします。

〇第３号議案

令和７年度の事業計画案／予算案／第５８回全国大会（札幌大会）について、審議されまた。主なものを掲載します。

□ **令和７年度事業計画案**

① 令和６年度全国大会・ブロック大会開催日程

◇第５８回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
第３４回全道肢体不自由児者福祉大会札幌大会
令和７年９月２７日（土）～２８日（日）　かでる２・７（北海道札幌市）

◇第４３回東北地区全国肢体不自由者父母の会連合会岩手大会
令和７年１０月２５日（土）～２８日(日)　いこいの村岩手（岩手県盛岡市）

◇第６２回関東甲信越肢体不自由児者父母の会神奈川大会
令和７年８月２日（土）TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜ランドマークタワー（神奈川県横浜市）

◇第６０回東海北陸肢体不自由児者父母の会連合会岐阜大会
令和７年６月７日（土）　大垣フォーラムホテル（岐阜県大垣市）

◇第５９回近畿肢体不自由児者福祉大会京都大会
令和７年７月１２日（土）　ホテルグランヴィア京都（京都府京都市）

◇第５５回中国四国肢体不自由者父母の会連合会香川大会
令和７年９月７日（土）　JR ホテルクレメント高松（香川県高松市）

◇第４１回九州ブロック肢体不自由児者父母の会大分大会
令和７年７月１９日（土）～２０日（日）　亀の井ホテル 別府（大分県別府市）

② さわやかレクリエーションの実施

既に、各都道府県肢連あてに今年度の要項を送信しており、実施事業の募集を開始しています。多くの事業の応募をお待ちしています。

※事業実施主体が地域父母の会であっても**「申請」は都道府県肢連から**となります。一部地域父母の会から直接申込されているケースがありますが、都道府県肢連以外からの申請は無効とさせていただきます。

③ 第５回あーと展覧会 2025 の実施

多くの人に自分の作品をみてもらう喜びや、一つの作品を完成させることで味わう達成感や、生涯学習としての楽しみを見つけるきっかけ作りと、隠れた才能の発掘などを目的に実施します。

対象者　　全国特別支援学校在籍者、事業所、父母の会会員

募集期間　令和７年５月～８月末(予定)

・対象作品：絵、書道、コンピュータアート、フォト、工作、等

・選考方法：審査委員会

・選考結果：令和７年９月頃（予定）

・展 覧 会：令和８年１月～３月末予定。ホームページ上で全作品を展示予定

・そ の 他：入賞作品を用いてカレンダー作製。入賞者へは賞状・副賞を贈呈、

④ 療育キャンプの実施

地区父母の会を対象に、全国６カ所にて療育キャンプを実施

・日帰り　　３カ所　（ＪＫＡ補助事業）

・１泊２日　３カ所　（ＪＫＡ補助事業２カ所・国庫補助事業１カ所）

※全国心身障害児福祉財団 国庫補助事業は申請中

要項が出来上がり次第、募集を開始します。

⑤ 地域指導者育成セミナー（ＪＫＡ補助事業）

◇テーマ　「グループホームの設立に係る仕組みや補助制度」について

・全国７カ所で実施（各ブロック）

⑥ 障害児者福祉増進事業

全肢連育英基金を活用し、事業を募集します（すでに募集を開始しています）。

その他、車椅子送迎車両寄贈、和やかレクリエーション等、例年同様の事業を予定しております。

□ **令和７年度予算案**

ほぼ例年ベースの予算案が承認されましたが、理事会時点で、助成金の交付決定等がなされていなかったことなどから、令和７年第１回理事会（５月２６日開催予定）にて、第１次補正予算案を審議することとなりました。

□ **第 58 回全国大会（札幌）の件**

◇第５８回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会（札幌大会）について

北海道肢連より、資料が提出され、承認されました。

大会趣旨

令和６年度から障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本指針（厚生労働大臣告示）に基づき、市町村等が、障がい福祉サービス等の質を向上させるための体制を構築することとなりました。

地域においては、医療及び障害福祉サービス事業所の人材不足により、必要な医療・福祉サービスが地域で利用できない「地域格差」、親子ともども及び支援者の高齢化に対する諸問題「親亡き後の問題」、「生活保障の安定」や「多発する災害への対応」など、住み慣れた地域で「安心、安全」に暮らすための共生社会の実現には、未だに十分な支援が行き渡っていない状況であります。

北の大地北海道（札幌）において全国の仲間が集い、障がい児者を取り巻く医療･福祉の環境の改善に向けた課題について共有するとともに一つでも解決できるよう、広く提言していく場として本大会を開催します。

第５８回　全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
第３４回　全道肢体不自由児者福祉大会（札幌大会）

主催：一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会
　　公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会

開催期間：令和７年９月27日（土）～ 28日（日）

会場：＜大　　会＞　北海道立道民活動センター（かでる２・７）
　　＜情報交換会＞　ＡＮＡクラウンプラザホテル札幌　３階　鳳の間

参加者：各都道府県父母の会会員、関係機関・団体所属者 及び
　　大会開催趣旨に賛同する一般参加者

後援(予定)：内閣府、厚生労働省、文部科学省、こども家庭庁、北海道、札幌市、千歳市、北海道市長会、北海道町村会、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、千歳市教育委員会、社会福祉法人日本肢体不自由児協会、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団、社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国特別支援教育推進連盟、全国肢体不自由児施設運営協議会、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会、全国肢体不自由特別支援学校ＰＴＡ連合会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、社会福祉法人北海道共同募金会、公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金、一般社団法人北海道医師会、一般社団法人北海道歯科医師会、日本赤十字社北海道支部、一般社団法人北海道身体障害者福祉協会、一般社団法人北海道手をつなぐ育成会、一般社団法人北海道知的障がい福祉協会、北海道重症心身障害児(者)を守る会、北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、北海道私立中学高等学校協会、北海道特別支援学校長会、北海道特別支援学校肢体不自由・病弱教育校長会、北海道特別支援教育関係ＰＴＡ連絡協議会、公益社団法人北海道理学療法士会、公益社団法人北海道作業療法士会、北海道新聞社、朝日新聞北海道

支社、読売新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、福祉新聞社、NHK 札幌放送局、HBC 北海道放送、STV 札幌テレビ放送、HTB 北海道テレビ、UHB 北海道文化放送、TVh テレビ北海道、FM ノースウェーブ 札幌　（順不同）

協賛(予定)：コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、名鉄観光サービス株式会社、

〇第４号議案　令和６年能登半島地震義援金使途の件

◇入金

① 義援金　５，５０３，０４０円

② 全肢連より　５００，０００円（令和５年度支出）

計　６，００３，０４０円

◇出金

① 石川県肢連　５，５９９，５３９円

② 新潟県肢連　２３０，０００円

③ 振込手数料　５，０６０円

④ 事務費　１６８，４４１円（現地視察等含む事務費）

計　６，００３，０４０円

石川県肢体不自由児者父母の会連合会　松田 郁夫会長より

昨年の元日に発生した能登半島地震に際しては、全肢連・全国の県肢連・地域父母の会並びに多くの個人の皆様からの温かいご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

被災した会員さんの一部は、未だに仮設住宅や親戚宅などで、不自由な避難生活を続けています。石川県肢連では引き続き、被災者に寄り添いながら支援を続けていきますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

〇第５号議案　その他報告事項等について

① 公益社団法人へ申請について

令和７年２月２７日に内閣府大臣官房公益法人行政担当室　システム担当　に、公益認定申請書の申請・届出の提出を完了しました。

② ２０２５年公益財団法人日本財団補助事業不採択について

「車いすシーティングの実践で障害児者の未来をひらく！！」

幼児期から成長過程に応じ、正しい姿勢を保つ必要性を学ぶため全肢連会員・保護者・支援学校教職員等を対象に車いす使用者と適切な座位保持装置を選定し体験・実践する研修会を通し、生涯にわたり二次障害を防止し誰もが健康的な生活となることを目的とし、標記テーマで３か年事業として申請しましたが、不採択となりました。別の形で事業展開できるよう構築中です。

③ ブロック大会での「全肢連」の位置づけについて

今年度より、<u>各ブロック大会での全肢連の位置づけは「共催」とする</u>ことが、議決されました。また、全国大会・ブロック大会のメインテーマは「住み慣れた地域で共生社会の実現」とし、テーマを新しくする際には理事会で検討することになりました。

「車いす送迎車」贈呈式

アステラス製薬株式会社「フライングスター基金」より、平成９年度から毎年「車いす送迎自車」を寄贈いただいています。（合計 230 台：令和７年３月末現在）

寄贈先は、日頃、地域福祉推進のため地域の中に根ざした活動を続けている施設や団体、かつ確実な維持管理と有効に活用できることを推薦基準とし、フライングスター基金選考委員会において寄贈先が決定されます。

令和６年度は、スロープ付き軽自動車 車椅子一脚 仕様 １台を、「生活支援ネットワークこもれび（茨城県）」に贈呈いただき、令和７年３月２６日（水）に、アステラス製薬株式会社の関係者にもご出席を賜り、執り行いました。

〇茨城県肢体不自由児者父母の会連合会　御代川会長

「素晴らしい贈り物をいただきありがとうございました。アステラス製薬の社員お一人お一人の福祉に対するご理解の心とそのお気持ちを、私たち当事者も心に秘めてこれからも障害児者が住み慣れた地域で幸せに暮らすための共生社会に向けて活動してまいります」

〇アステラス製薬株式会社　山口さん

「この車が、皆さん充実した日々を送れるようにお役立ていただけると、私たちはすごく嬉しいです。ぜひ有効に使っていたと思います」

〇生活支援ネットワークこもれび　尾坐原さん

「アステラス株式会社様と社員有志の皆様の思いの詰まった送迎車を寄贈していただき、本当にありがとうございます。スタッフはもちろん利用者の皆さんも大変喜んでおります。近年、当事業所では車いすを使う利用者さんが増え、外出活動の機会が少なくなっている状況でした。これからは利用者さんの方を乗せたアステラスマークのついた車が、このひたちなか市を走り回っているのではないかと、今からわくわくしております。思いの詰まったこの車とともに、当法人の理念である『笑顔いっぱいのまちづくり』を目指してこれからも歩んでいきたいと思います」

贈呈式の様子

寄贈車の前で記念撮影

利用者の方から、お礼のメッセージカードが、アステラス製薬担当者に贈られ、みんなで記念撮影を行い、贈呈式は終了しました。

アステラス製薬株式会社「フライングスター基金」並びに、社員の皆さまに心からの感謝を申し上げます。

バギーに寝たままホームラン
重度障害者の「ウルトラ・ユニバーサル野球」全国大会

（令和７年４月５日　YAHOO トピックより抜粋）

体育も運動会も経験したことがない難病や重度障害のある子どもたちが野球選手になって、試合を決める劇的ホームランを打つ。そんな夢も実現可能な「ウルトラ・ユニバーサル野球」の初の全国大会が開かれた。体を動かすことも話すこともできない子どもが、きょうだいや友だちと一緒に、全国の子どもたちと熱戦を繰り広げる。そんなインクルーシブなチーム編成の大会はどのように実現したのか。また、参加した子どもたちはどのような経験を得たのか。

今年１月、イベント会社のスタジオには両翼約５メートルの「ユニバーサル野球」と呼ばれる球場が設置されたが、選手の姿は見当たらない。選手は、自宅や施設等からオンラインで遠隔操作する形で参加したからだ。

ユニバーサル野球場

ある選手は、今大会に視線入力で参加した。 球場のホームベース上にある回転テーブルに、スタッフが野球ボールを置き、パソコン画面上のボールをじっと見つめる。20 秒以内に、視線入力でバットスイングの信号を送らねばならない。しかし、回転するボールを見ながら、信号を送るボタンにも視線を合わせることは難しい。ようやく、視線がボールをとらえて信号を送ると、瞬時に球場のバッターボックスに固定されたバネ仕掛けのバットが回転し、ボールに当たった。場内が突如、絶叫の渦に包まれた。

「打った！　センターに飛んでいくぞ、ホームランだ！　出ました。先頭打者の見事なホームラン！」 バットに当たったボールはカーンと音を立てて、センターのホームランポケットまで転がった。それまで球場を映していたオンライン画面が選手に切り替わる。興奮し過ぎて、顔は涙でぐちゃぐちゃに。

全国大会には計９チームが出場した。5～40 歳の 59 人が集まった。選手の自宅などと球場が設置された会場はネットワークでつながり、カメラで映し出されたそれぞれの様子は、運営本部により、YouTube 配信された。運営には、実行委員会関係者、イベント会社のスタッフ、ボランティアスタッフが 30 人以上集まった。

球場には、外野フェンスの前に１塁打、２塁打、３塁打、アウトのゾーンが設けられている。HOMERUN ポケットに見事入ればホームラン、球場からボールが外に出たらファウル、球場内にボールがとどまったり、守備ポケットにボールが入ったりしたらアウトだ。投球はゴロのみで、飛球はない。

岩手県立大学（当時、島根大学）で福祉情報工学が専門の伊藤史人さんは、2015 年、視線入力機器が日本に輸入されたとき、重度障害のある子どもが適切に目を動かすには練習が必要になることに気づき、ゲームアプリ「EyeMoT（アイモット）シリーズ」の開発を重ねてきた。シリーズの特徴は、ルールが理解できなくても、いつのまにか遊べること、さらに、視線入力の軌跡が記録に残るため、子どもがどこを見ていたかを可視化できることだ。伊藤さんは、子どもの打つタイミングの信号を球場のバッティング装置が受信し動力に変えることで、バットが回転するしくみをつくった。 さらに、伊藤さんは選手の練習用に、研究室の学生とゲームアプリ「誰でも野球盤 3D」を開発した。特徴は、視線入力やスイッチの入力だけで投球もバッティングもできる

ことで、重度障害のある子どもと健常の子どもが一緒に遊ぶことを想定して作られている。
「子どもたちの未来を変えたい」という一心で進められたプロジェクトだったが、日増しに大人たちの本気度は上がり、「甲子園のように 47 都道府県の出場チームが出てくるといいね」と夢も膨らんでいる。オンラインで試合ができる特徴を生かし、「日韓戦とか、日米戦とか、WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）もできるかも」といった声まで上がる。
技術面で大会を支えた伊藤さんは、チーム発足から大会出場までの過程が大切だと話す。 「お住まいの地域でチームを作るので友だちが増えたり、チーム内で練習会をして雑談したりお弁当を食べたり、視線入力やスイッチのスキルが上達したりすることが大会での応援や喜びの土台となります。ゲームや試合を超えたコミュニケーションが生まれることが、人生にとって大事ですね」 これまで重度障害のある子どもたちは、いつも家族や支援者の手を借りて、何かをすることが多かった。しかし、この野球大会では自分の力でバッティングする経験を重ねられる。チームで目標を達成する喜びや重圧を感じたりすることもできた。そして何より「重度の障害がある子どもは一人では何もできない」と思い込んでいる家族や支援者の意識を大きく変えた。テクノロジーが重度障害のある人の可能性を引き出したからだ。これまでは考えられなかった発想の転換が子どもたちの人生を切り拓いていくだろう。

日本トイレ協会セミナー「うんと知りたいトイレの話」のお知らせ

全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会より紹介があり、以下のセミナーにて講演を行います。

「第 45 回　車椅子使用者が経験した能登半島地震」

トイレに配慮が必要な方の災害時のトイレ問題はほとんど取り上げてきませんでした。
そこで今回は、インクルーシブ防災の視点から、輪島市にお住いの車椅子使用者のご家族２組にご登壇頂きます。どのように避難されたのか、そして避難先のトイレ事情、長引く避難生活でのトイレ問題などについてお話を伺います。

登壇者　：松田 郁夫（石川県肢体不自由児者父母の会合会　会長）
　　坂下 喜美恵、熊野 真由美（輪島市肢体不自由児者父母の会）

●開催日時：2025 年４月 24 日（木）18:00-20:00
●開催方法：ZOOM

有料（1,000 円）セミナーですが、関係者は無料で招待いただけることになりました。参加をご希望される方は、全肢連事務局（**zenshiren_jimukyoku@zenshiren.or.jp**）までメールにて、ご連絡ください（４月 21 日　17:00 締め切り）。

事務局より

〇令和６年度監事監査
　令和７年５月９日（金）　　１０：３０～　全肢連事務局
〇令和７年度第１回理事会
　令和７年５月 26 日（月）　１０：３０～　参議院議員会館会議室（予定）
〇令和７年度通常総会（全国会長・事務局長会議）
　令和７年５月 26 日（月）　１３：３０～　参議院議員会館会議室（予定）